

講義名	対)経営組織特論			授業形態	
担当教員	瀧本 隆弘	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

組織とは我々人間の能力の限界を克服するために形成されるもので、それをもって人間社会の進歩が実現された。「組織の時代」である現代をよりよく生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠である。経営組織論は、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業という組織を研究対象としている。本講義では、組織論の基本的知識、代表的な組織理論の紹介を中心に講義する。次に、現代経営と組織というテーマで企業の組織（経営組織）について講義を進めていきたい。つまりここでは、現代の高度化した産業社会における企業の絶え間ない変化を見る中で、企業経営はどのような問題に直面し、それにどの様に対応しているのかを企業の組織と管理を通して明らかにする。講義では、できるだけ現実の企業経営で起きている組織問題の事例を取り上げ、それをマネジメントの視点から考察していきたい。

到達目標

- ・経営組織論に関する基礎的な知識を修得できる。
- ・組織研究の変遷について知る事ができる。
- ・どのような組織のタイプが存在し、どういった環境に適応しているのかを知ることができる。
- ・組織の変遷のプロセスについて知る事ができる。
- ・仮説、検証を通して答えを導き出す課題解決型思考を持つことができる。
- ・企業や組織のリーダーに求められる、企業経営の具体的な改善策や解決策の提案ができるようになる。
- ・知的、実践的能力を身につけることができる。

提出課題

数回のレポート提出を求める。ただし、提出回数や時期、その他詳細は受講生と相談の上、決定する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の解説については、講義中にクラス全体に向けて行う。
履修者が5名以下の場合は、個別に講評を行い、流科ポータルの受講生独自のメールアドレスへ返信する。
履修者が多い場合は、講評は流科ポータルから全体に向けて行う。
オンデマンド型講義になった場合は、全て流科ポータルを通じて実施する。

評価の基準

中間試験・期末試験は行わない。
・レポート提出（数回）
・発表（1回）
・出席調査
・ディスカッションへの参加度
これらをもとに総合評価を行う。
出席点 30%
レポート提出・発表・参加度 70%
新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義へ変更される可能性がある。評価の基準にも変更が生じる可能性があり、不明な点は担当教員に必ず問い合わせること。

履修にあたっての注意・助言他

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義へ変更される可能性がある。評価の基準にも変更が生じる可能性があり、不明な点は担当教員に必ず問い合わせること。
変更については講義中、および流科ポータルの講義連絡やメールを通して行うので、それらのチェックを怠らないこと。
講義はJ/ワーポイントで進行する。
テキストは設定していないので、講義スライドをプリントアウトして配布する。
ケース(事例研究)を使い講義の理解度を上げる。
発言の機会を頻繁に作ることで、参加意欲の高い、双方向の講義を目指す。
発表の機会を持つことも計画している。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

・【新版】組織行動のマネジメント 入門から実践へ	スティーブン P.ロビンズ・高木 晴夫	ダイヤモンド社	3080	4478004595
・経営組織論。	十川廣國	中央経済社	2640	9784502475405
・組織論 補訂版。	森田耕太郎・田尾雅夫	有斐閣	2340	9784614124127

その他

テキストは設定していないので、講義スライドをプリントアウトして配布する。

- <参考文献>
P.Fドゥラッカー 『上田 博生(翻訳) 『マネジメント1』[エッセンシャル版]第49版 ダイヤモンド社 2001
田尾雅夫編著 『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房 2010
稲葉 祐之・井上 運彦・高木・山下 勝 『キャリアで語る経営組織--個人の論理と組織の論理』有斐閣 2010
鈴木 竜太 『はじめての経営学』経営組織論 経済新聞社 2018
高尾義明 『はじめての経営組織論』有斐閣 2019
中野 勉・加藤 俊彦・関口 倫紀・山田 真茂留・若林 直樹 『グラフィック 経営組織論(グラフィック経営学ライブラリ 2)』新世社 2021
森本三男 『現代経営組織論第2版』学文社 2001

授業計画

- *経営組織論への導入
- 1. 経営組織論の概要
- *人の行動とパーソナリティー : 人の行動を理解する
- 2. パーソナリティ
- 3. モチベーションの理論
- 4. コミットメントとインセンティブ
- *チームの力学を理解する : チームとコミュニケーション
- 5. グループダイナミクス
- 6. コミュニケーション
- 7. コンフリクトマネジメント
- 8. チームマネジメント
- *組織の作り方を理解する : 組織づくりと運営の方法
- 9. パーオードの組織論
- 10. 科学的管理法
- 11. 組織形態
- 12. 組織文化
- *人と組織を動かす : リーダーシップとマネジメント
- 13. リーダーシップ
- 14. コーチング
- *人と組織を成長させる : 能力開発と組織変革
- 15. イノベーション

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

ケース(事例研究)を使用した、問題解決型思考の講義を目指す

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義で使用するスライドや資料は事前に配布を行うので、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には配布できるようにする。
課題提出を求めているが、講義内容に沿った内容の課題テーマが設定されているので、課題を作成することが復習の代わりになる。
日誌的に、新聞、ビジネス雑誌、Netのニュースなどをチェックして、企業に関わるタイムリーな話題に接してほしい。また、参考文献は図書館に配置されているので、それらを活用してもらいたい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標を、を具体的な事例（ケース）を使用しながら達成することで、様々な業界における企業組織の行動について、問題解決型思考を養うことができる。組織理論をフレームワークとしつつ、企業や組織のリーダーに求められる企業経営の具体的な改善策や解決策の提案ができる知的、実践的能力が養われる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義へのITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。
・学生のモチベーションを上げる。
ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用し分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。
・学生も教員も楽しみながら、効率的な学習ができる。
学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えづらいことを、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、楽しみながら効率的な学習を進めることができる。
・学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

以下のオフィスアワーを利用して教員とコンタクトをとるように。
オフィスアワー : 研究棟 1階 111号研究室 月・水・木 12:10-12:50
問い合わせについては以下の公開された電子メールでも対応する。
瀧本隆弘 メールアドレス: Takahiro_Hanamoto@red.unds.ac.jp
新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義へ変更になった場合。